

サステナビリティ重要課題・取り組み

サステナビリティ重要課題への取り組み

当社グループは、人々の大切な生活基盤が地域社会、そして地球環境であることに鑑み、「人」「地域社会」「地球環境」の3つの領域を重点領域として定めております。各領域のサステナビリティ向上に向け、以下のとおりさまざまな取り組みを進めています。

領域	サステナビリティ重要課題	主な取り組み
 人	<ul style="list-style-type: none">① 人生100年にわたる安心・安全の提供② 希望に満ちた未来世代を育む③ 多様性と人権の尊重	<ul style="list-style-type: none">➢ 商品・サービスの提供➢ ライフサポート事業（介護・医療関連・保育等）➢ ヘルスケア事業➢ DX戦略➢ イノベーション開発➢ 人権の尊重
 地域社会	<ul style="list-style-type: none">④ 活力あふれる地域社会の創出	<ul style="list-style-type: none">➢ 地域社会や人々とのつながり➢ 地球環境への取り組み➢ 資産運用（アセットマネジメント含む）➢ 海外での事業展開
 地球環境	<ul style="list-style-type: none">⑤ 豊かな地球を未来につなぐ	

上記を支える経営基盤	<ul style="list-style-type: none">➢ コンプライアンス➢ リスク管理➢ コーポレートガバナンス➢ 人的資本
------------	---

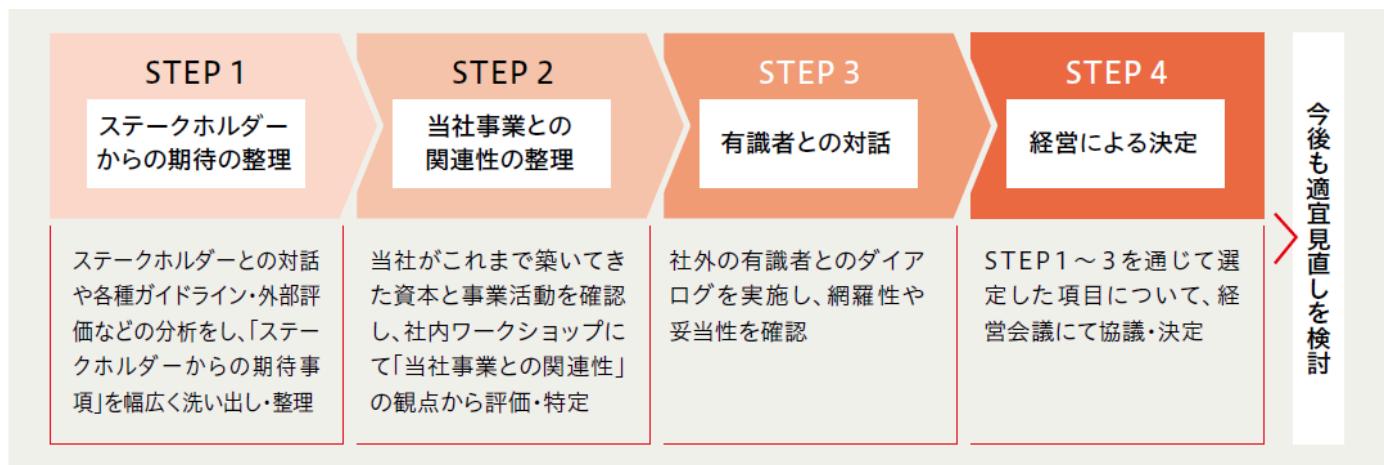
サステナビリティ重要課題におけるリスクと機会

領域	サステナビリティ重要課題	社会課題	リスクと機会
 人	① 人生100年にわたる安心・安全の提供 ② 希望に満ちた未来世代を育む ③ 多様性と人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口動態の変化 ● 経済格差の拡大 ● 多様性への配慮不十分 ● 人権問題 	リスク:少子高齢化やニーズの変化、人材不足等の保険事業・環境の変化等 機会:プロテクションギャップ、若い世代の加入率、より健康に長生きしたいというニーズの高まり
	④ 活力あふれる地域社会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域人口の減少 ● 労働力の低下 	リスク:地域人口・企業の減少による保険事業の需要減少、生産労働人口減少・人材流動化による職員・代理店等の減少、および専門人材の不足等 機会:企業の活力維持・向上による地域経済の活性化、地域創生に向けた新規事業の創出等
 地球環境	⑤ 豊かな地球を未来につなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境問題 <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動 ・自然資本の毀損・生物多様性の損失 ・非循環型社会 	地球環境による物理的リスク・移行リスク・機会については、「気候変動・生物多様性への対応」を参照*

- › 「気候変動への対応」はこちら
 › 「生物多様性への対応」はこちら

サステナビリティ重要課題の特定プロセス

①ステークホルダーとの対話や各種ガイドライン・外部評価などの分析を通じ、ステークホルダーからの期待を整理し、②社内ワークショップによる当社事業との関連性の観点で評価・特定を行い、③社外の有識者とのダイアログを実施したうえで、④経営としてマテリアリティを決定しています。今後も、社会動向や経営への影響などを踏まえ、適宜見直しを図ってまいります。



アウトカム目標

当社グループとして実現したい社会への貢献度を測る物差しとして、「アウトカム目標」を設定しました。アウトカム目標は当社グループの経営目標であり、事業活動の結果である"アウトプット(KPI)"と連動させていくことが重要です。具体的には、事業活動を通じたアウトプット(KPI)の達成が、「人」「地域社会」「地球環境」へのアウトカムの創出につながり、巡り巡って当社グループへの効果をもたらし、当社グループの資本増強につながるという好循環を生み出してまいります。この好循環を繰り返していくことで、『誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会』の実現を目指してまいります。

領域	項目	2024年実績	2030年目標	2035年目標	2040年目標	2050年目標
 人	お客様数 (国内グループ)	1,519万名	—	1,700万名	—	—
	顧客企業数 (国内グループ)	34.8万社	—	37万社	—	—
	お客様満足度 (日本生命単体)	93.7%	—	90%以上	—	—
	預かり資産 (グループ)	119兆円	—	140兆円	—	—
 地域社会	ニッセイ版健康寿命 (日本生命単体)	男性71.50歳 *	—	2歳延伸 (対'23比)	—	—
		女性73.77歳 *	—		—	—
 事業活動	CO ₂ 排出量 (グループ)	▲30.0% (対'13比)	▲51%以上 (対'13比)	▲60%以上 (対'13比)	▲73%以上 (対'13比)	 地球環境
	うちスコープ1・2 (日本生命単体・自社管理部分)	▲68.6% (対'13比)	ネットゼロ	(ネットゼロ)	(ネットゼロ)	
	再エネ比率 (日本生命単体・自社契約部分)	56.7%	100%	(100%)	(100%)	
 資産運用	GHG排出量 (日本生命単体)	[総排出量] ▲44.8%* (対'10比)	[総排出量] ▲45%以上 (対'10比)	[総排出量] ▲60%以上 (対'13比)	[総排出量] ▲73%以上 (対'13比)	 ネットゼロ
		[インテンシティ] ▲35.6%* (対'20比)	[インテンシティ] ▲49%以上 (対'20比)	[インテンシティ] —	[インテンシティ] —	
	GHG削減寄与量 (日本生命単体)	年471万t	年1,500万t	—	—	

* 2023年実績を記載

› 中期経営計画における取り組み・KPI、関連するアウトカム目標はこちら 